

大門だより

No. 9

(468号)

荒川区立大門小学校

校長 野澤 一代

令和6年 1月 9日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「甲辰（きのえたつ）」

校長 野澤 一代

新年明けましておめでとうございます。



皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

1月の季語。お年玉、かんじき、ごまめ、梅、カランコエ、クリスマスローズ、シクラメン、七種（ななくさ）、万歳。お正月関連の言葉が多いですね。

さて、今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」。「甲」は「物事に対して耐え忍ぶ状態を表す」文字です。「辰」は「自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる」状態を表します。十二支の中でも唯一の空想上の生き物ですが、東洋では権力の象徴とされ、親しまれていたことから干支に選ばれたと言われています。総じて、「時代が発展していく年」となると言われています。

さて、12月の道徳授業地区公開講座にご参観いただき、ありがとうございました。今年度の道徳授業地区公開講座のまとめは、桂やまと師匠による落語と講演でした。今年度は「思いやり」をテーマに各学級の授業を行いました。そこで、あらかじめ師匠にも「思いやり」でお話をと依頼していました。落語は、大門小学校の児童は聴くのも見るのもはじめての児童が多いので、聞き方、想像の仕方など笑いを交えながら教えていただいた後、落語「狸の札」の噺が始まりました。児童は狸がお札になる様子や一人二役も三役こなす師匠の姿を食い入るように見つめ、笑っていました。

噺が終わると師匠から「自分の名前を大切に」という話を伺い、大笑いから神妙な面持ちに変わりました。師匠は「親は子供の名前を何度も呼んで、その名前を大切に思っている。その名前を馬鹿にしたり、変な呼び方で呼んだりするのはもっての外だよ。落語の世界を想像できる君たちなら想像できるよね？」本当にそうです。お互いの「名前」を大切に毎日過ごしてもらいたいと校長としても一人の親としても思います。

令和5年度も残すところ、3ヶ月。

卒業関連の行事が控え、各学年のまとめの時期に突入です。学び残し、心残りがないう、教職員一同、気を引き締めて教育活動に取り組みます。

引き続きご協力、よろしくお願いいたします。



元旦に能登半島一帯を襲う大きな地震があり、たくさんの方が被災されました。心からお見舞い申し上げます。大門小学校は日々の生活を大切に送りながら、毎月の避難訓練を重要な機会とし、児童の防災意識を高めていくことを引き続き行っていきます。